

タイから介護技能実習生が来日

タイから初めての技能実習生が来日し、城西病院で日本の介護を学んでいます。来日したのは、ユパボン・アヤワンさん。アヤワンさんは、財団法人 茨城国際親善厚生財団（IIF）がタイを拠点に行っていた国際医療支援のプロジェクトで IIF スタッフとして協力していた縁もあり、タイからの技能実習生受け入れの第一陣として、介護を学びに来ました。

アヤワンさんは、タイ北東部でラオスと国境を接するノンカーイ出身で、バンコクの看護学校で看護助手の仕事を学び、バンコクの病院で働きながら、大学の通信教育で経営監理を学びました。

17 年前にタイの病院で働いている時、卒業した看護学校を通じて、城西病院で看護を学ばないかという話があり、同僚と 2 人で約 2 カ月間、城西病院を視察しました。その後、IIF がタイやミャンマー、カンボジアなどメコン河流域の国々の医療関係者を指導する GMS（メコン大流域地区）メディカルトレーニングセンターの国際医療支援に IIF の運営スタッフの 1 人として参加。こうした縁から、今回、タイからの技能実習生の第一陣に選ばれ、4 月 28 日に入国しました。

「2 年前に日本に来る予定でしたが、コロナ禍のために来ることができませんでした。タイでは高齢者が増え、バンコクなどの都市では高齢者の施設が建てられています、介護員が足りないという状況です。私もコロナ禍のために仕事がなく、日本に行って勉強したいと思っていました」と話します。

技能実習生は、来日してから日本語学校で約 1 カ月の間、入国後講習を受けますが、アヤワンさんはコロナ禍のために寮でオンラインで授業を受けました。そして 6 月 3 日から、城西病院で実習を受けています。趣味は読書で、日本のマンガが大好きで、特に『ワンピース』がお気に入り。3 児の母で、「日本語をもっと勉強して、家族のために頑張りたい。日本のいろんな所に行ってみたい」と話していました。 2022 年 6 月 18 日

